

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	Saisur Rahman		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	都市博甲第2245号		
学位授与年月日	2022年9月16日		
学位授与の根拠	学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号)第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項		
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻		
学位論文題目	“Subjective well-being strategies” of the female garment workers in Bangladesh		
論文審査委員	主査	横浜国立大学 横浜国立大学 横浜国立大学 横浜国立大学 恵泉女学園大学	准教授 佐藤 峰 教授 藤掛 洋子 教授 松本 尚之 教授 松行 美帆子 名誉教授 大橋 正明

論文及び審査結果の要旨

本論文は、バングラデシュにおける女性縫製工場労働者が、客観的ウェルビーイング指標から判断すれば、過酷な労働・生活状況であるにも関わらず、「幸福である」と感じている要因について、何らかの「主観的ウェルビーイング戦略」を採用しているのではという仮説のもとに、主に社会福祉学の立場より研究を行なったものである。論文では、バングラデシュの地域的な文脈の説明の後、農村から都市への若い女性の移住にかかる要因を分析、OECDを含む既存のウェルビーイング指標および枠組みについて批判的検討を行い、「主観的ウェルビーイング」に関わる検討が欠落していることを指摘する。実地調査としては、ダッカ郊外のガジプールにおける女性労働者50名に対しての生活状況に関わるアンケート、25名の女性労働者への半構造化インタビューより、彼女らの「主観的ウェルビーイング戦略」の詳細を明らかにし、OECDのウェルビーイングに関わる枠組みに対して修正案を提示している。新規性・学術性・社会的意義において評価に値する論文と判断できる。

予備審査では、1) 搾取を正当化しているなど誤解を受けないよう、主観的ウェルビーイング戦略という語句を使う理由の類似研究と引用した上での説明、2) 農村から都市へ女性が移住する構造的な要因の及び都市での労働環境の分析、3) ナラティブのさらに詳細な分析(類型化、本当に戦略として機能しているかという検証など)、4) 論文の体裁の確認(語句の定義、要旨と本論の整合性、参考文献の抜け等)などについての指摘がなされた。

今回の論文ではその大半が反映されているものの、批判的分析(主観的ウェルビーイングと客観的ウェルビーイングの関係性、「主観的ウェルビーイング戦略」という呼称の是非、短期と長期戦略の区分のクライテリア、上述のテーマの結論や提言への反映など)が十分に深いと言えない部分もあり、論文はB、試験は質問に対して一定レベル以上の受け答えができていたのでAという結果となった。また、iThenticate にかけたところ、剽窃はないことが確認された。よって、審査委員会として、合格と判断する。

(試験の結果の要旨)

2022年7月29日午前10時半より、オンライン（zoom）において公聴会、2022年7月29日11時50分より、オンライン（zoom）において審査委員会を行った。その結果、博士学位論文として十分な内容を有しており合格と判定する。また、学位論文を中心として、これに関連する分野の科目について博士（学術）の学位を得るにふさわしい学力を有すると判定された。修了に必要な単位は取得済みである。

外国語能力については、現地調査において必要なベンガル語は母語、論文を作成し発表するために必要な英語能力は、ゼミ・学会・論文発表などにおいて確認されている。

また、学位取得に必要な数の対外発表論文については、博論の第三章に当たる論文1本 (Assessing the factors of rural to. Urban migration of less-educated women: A qualitative study on female workers in Bangladesh, Saidur Rahman, 常盤台人間文化論叢, 査読有, 第7巻第1号, 83-110 ページ, 2021年) が出版されている。それ以外にも、研究テーマに関連する論文が2本 (“Working environment of the female garment workers in Bangladesh, Saidur Rahman et al”, *Empowerment*, 査読有, vol.25, pp37-46, 2018)、 (“NGO roles of economic empowerment of rural women in Bangladesh,” Saidur Rahman et al, *The Journal of Social Development*, 査読有, vol.30, no.1, pp.175-201, 2019)、および、博士論文の内容についての学会発表が2本 (“Women in the Garment Industry: The migration of rural women into urban garment industries”, 第29回国際開発学会全国大会 (筑波大学) 2018年11月23-24日)、 (“Subjective well-being strategies of “less-educated” single female garment workers in Bangladesh”, 第32回国際開発学会全国大会 (金沢大学)、2021年11月20-21日) が存在する。

以上により最終試験は合格と判断した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。